

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和5年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度(評価)  
**A**: 十分達成できている  
**B**: おおむね達成できている  
**C**: やや不十分である  
**D**: 不十分である

学校名	伊万里市立山代西小学校
1 前年度 評価結果の概要	評価結果は全項目でAまたはBの評価となり、一定の成果が上げられていると考える。しかし、「学力の向上」については、家庭学習の習慣化が十分に身に付いていない児童がいるため、更なる内容の見直しや取り組みの工夫を行っていく。また、「情報モラルの指導」については、様々な場面で取り組んできたが、家庭での実践につながっていないことが分かった。以上の2項目は、より一層家庭と連携しながら継続して取り組んでいきたい。令和4年度も地域の方々の来校や地域各所に出かけての調べ活動や体験活動等を通して、地域のよさを感じ取る学習ができた。地域の方からの喜びの声も学校に届いた。今年度も継続して取り組むが、職員の多忙感が少ないよう時期や内容等を精査していく。
2 学校教育目標	感謝の心を大切にし、自ら学び・行動する人間性豊かな児童の育成
3 本年度の重点目標	<input type="radio"/> 「ありがとう」と言える心を育てる(豊かな心) <input type="radio"/> 健康的な生活の実践意欲を育てる(健やかな体) <input type="radio"/> 実態に合う指導で学ぶ意欲を育てる(学力の向上)

4 重点取組内容・成果指標 中間評価 5 最終評価

(1)共通評価項目	重点取組		具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
	評価項目	取組内容		達成度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	○自分の考えをしっかりと、考えを深めていく学び合い活動を実践できたことと答える教師を85%以上にする。	・学年の実態に応じ、「学び合い」「振り返り」を重点にした授業の流れを実践していく。 ・校内研の柱に「学び合い」、スピーチや四則計算に取り組む「佐代川タイム」を設定し、取組の促進を図る。	B	・学年の実態に応じて、「学び合い」を取り入れた授業を実践してきた。2回の研究授業を行い、「学び合い」について協議をし、理解を深めた。また、全学級で授業を公開し、各学級の実態に応じた「学び合い」のあり方について考えることができた。 ・「佐代川タイム」を実践してきた。	B	・児童の実態を見極めて「学び合い」活動を授業に取り入れて実践し、授業を通して、自分の考えや思いを深めるようにしてきたが、自分の考えをもつことに課題が見られる。 ・「佐代川タイム」を定期的に実施し、自分の考えや思いを友達に伝えることができた。	A	・先生方は一生懸命取り組まれていると思う。 ・少人数なので難しいこともあると思うが、児童の実態に応じて指導して行ってほしい。 ・「佐代川タイム」は山代西小学校の伝統なので、内容を充実させながら、これからも取り組んでほしい。	・学力向上対策 ・コーディネーター ・研究主任
	○問題解決学習を中心に据え、学び合い活動を充実させる授業の実践	○「自分の考えを発表することが好き」「友達のことを聞くことが好き」と回答した児童を80%以上にする。	・問題解決学習の流れを取り入れた授業を実践する。 ・算数タイムを設定し、基礎基本の定着を図る。 ・図や表などを適切に用いて相手に伝えることの習慣化を図る。	B	・問題解決学習の流れを取り入れた授業をほとんどの教師が実践してきた。 ・自分の考えを発表することに苦しさをもつ児童もいる。一方、友達と意見を聞いて共有することは多くの児童ができていく。 ・算数タイムに継続して取り組み、基礎基本の定着を図り、自分の考えをしっかりとてようとしていく。	B	・問題解決学習の流れを取り入れた授業を多くの教師が実践している。 ・友達と意見を聞いて共有することはだいたいの児童ができていくが、発表に苦しさをもつ児童もいる。 ・基礎基本の確実な定着を今後も図り、自分の考えをしっかりとてようとしていく、発表の苦しさを克服させたい。	B	・先生方は指導されていると思うが、定着するには時間がかかるので、継続して指導をしてほしい。	・学力向上対策 ・校内研究部
	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○学校は様々な資料等を活用し、心の教育に積極的に取り組んでいると答える保護者を80%以上にする。	・「いのちの教育」指導資料を活用した道徳年間計画を作成し、道徳の授業の実践を行う。 ・保護者へ「ふれあい道徳」の案内を出すことで関心を高め、家庭と学校とが協力して心の教育に向かうことができるようにする。	B	・道徳年間計画に沿って実践しているが、「いのちの教育」指導資料の活用はこれからである。 ・人権集会において、人権のキーワードや学校における友達との関わりについて指導を行った。人権集会を行った当日、各学級や個人のこれからの取り組みのめあてを立てて掲示した。「ふれあい道徳」は3学期に行う。	B	・教育相談週間に合わせて「いのちの教育」に取り組んだ。また、学級通信で「ふれあい道徳」の案内を出し、ほとんどの家庭から参加があった。 ・77%の保護者が、学校が心の教育に積極的に取り組んでいると答えた。分らないと答えている保護者も5%程度いるので、学校の取組を随時発信していきたい。	A	・先生方はきちんと指導されている。 ・集会等の取り組みもしっかりとなされている。 ・保護者への説明や周知などを積極的に行う必要がある。	・道徳教育推進 担当者 ・人権・同和教育 担当者 ・各学年主任
●心の教育	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○「月のころ」アンケートで、「学校が楽しい」と答える児童が90%以上になるようにする。	・毎月末に「月のころ」アンケートを実施し、児童の心の状態の把握に努める。 ・職員連絡会で生徒指導等についての共通理解を、指導・支援に生かしている。 ・気になる子は担任、管理職と密に連携し、情報共有、共通理解に努め支援に生かしている。	A	・「月のころ」アンケートを毎月実施して、児童の心の状態を把握することができた。 ・職員連絡会で生徒指導等についての共通理解を、指導・支援に生かしている。 ・気になる子は担任、管理職と密に連携し、情報共有、共通理解に努め支援に生かしている。	A	・「月のころ」アンケートで、93.1%の児童が、「学校が楽しい」と回答した。児童の悩みには、担任と情報共有しながら対応することができた。 ・職員連絡会で気になる児童の様子を共有し、支援等について共通理解を図った。 ・気になる児童は校内支援委員会、ケース会議を開き、一貫した支援となるよう努め、全職員で指導支援にあたることができた。	A	・気になる児童の情報共有をきちんとされている。 ・教師の児童への目配りがなされている。 ・「学校が楽しい」と答えている児童は多いが、いづつトラブルが起こるか分からないので、今後も注意深く見守ってほしい。	・生活部 ・教育相談担当者
	●◎夢や目標の実現に向けて努力しようとする意欲を高める教育活動の推進	●◎自分の夢や目標の実現に向けて、努力していきたいと思う児童を90%以上にする。	・道徳科を中心に様々な教育活動を通して、自分自身と向き合う時間をつくり、目標や夢について考えさせる。 ・努力することの大切さを感じ取らせるために、学習や体験活動、行事への取組等において学びの振り返りを行う。	B	・道徳科の授業やキャリアパスポートの活用などを通して、自身の夢や目標について考えさせた。短期的な目標は立てていくことができていくが、将来の夢へとつなぐことまではできていない。 ・様々な活動後に振り返りを行い、自分の努力を確認することで達成感や満足感を得ることができた。また、友達の頑張りに目をつけることができるようになってきている。	B	・児童の88%が自分の夢や目標をもち、その夢に向けて努力しようとしている。目標や夢を達成できなかったり、実現に向けての活動につながっていかずたりする児童もいるが、少しずつ目標や進級・進学に向けて努力している姿も見られる。 ・行事や活動の後に自分自身を振り返ることや達成感や満足感を得ることができた。また、友達の頑張りに目をつけることができる児童も見られるようになってきている。	A	・子どもたちの前向きさを引き出してくださっている。 ・アプローチをどうしていくかを職員全体で考えてほしい。 ・児童の自己肯定感の低さは、保護者の自己肯定感の低さが関係しているのではないかと、今後とも注意深く見守ってほしい。	・総務 ・教務主任 ・各教科主任
●健康・体づくり	●運動習慣の改善や定着化	○授業以外で外に出て遊ぶ日が一週間3日以上の子を80%以上にする。	・保健だよりを活用する。 ・運動時間について口頭で尋ね、定期的に外で身体を動かすように呼びかける。 ・やまびこ広場にて、運動の大切さを伝え、身体を動かすことのよさ考える場を設ける。	B	・毎月、保健だよりを発行することができた。 ・休み時間には外で多くの児童が身体を動かしている。ただ、帰りも見られ、教室で過ごす児童もいる。引き続き「一人一人」に呼び掛ける。 ・運動の大切さを伝えることができていないので3学期のやまびこ広場で伝える予定である。	A	・保健だよりを毎月発行することができた。 ・3学期は天候が悪い日が多かったが、休み時間や身体などにも玄関に出て進んで縄跳びをしていった。引き続き「一人一人」に呼び掛ける。 ・2月の山びこ広場で運動の大切さを伝えることができた。	A	・朝や業間、昼休みになわとびやサッカーなどで元気遊んでいるということによって安心した。 ・引き続きご指導をお願いします。	・保体部
	○食育の充実	○給食を偏りなく食べることができる児童を85%以上にする。	・給食時間ややまびこ広場において、望ましい食習慣や食に関する指導を行う。 ・保健だよりと給食だよりを活用し、家庭でも偏食をなくすよう協力を呼びかける。	A	・栄養教諭によるやまびこ広場は実施できた。食育についてのやまびこ広場は、栄養教諭による資料提供で、1月に実施予定である。 ・保健だよりや食育だよりは毎月発行できた。栄養教諭による食育指導を、3・4年生で実施することができた。	A	・栄養教諭による資料提供で給食が始まったことや給食ができるまでの工程などについて、山びこ広場で実施したことで、児童の食に対する意識を高めた。 ・給食週刊については、給食センターへのお礼のメッセージを書き、感謝の気持ちを伝えることができた。児童の80%が好きな給食を食べようという意識をもっている。	A	・家庭と連携して、食に対する意識を高めてほしい。 ・アレルギーや給食中の事故について、今後とも気をつけて取り組んでほしい。	・保健主事 ・食育推進担当者
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・定時退勤日(金曜日)を設定する。 ・業務記録票による勤務時間の確認と必要に応じて個別対応や支援を行う。 ・校務のICT化を促進させ、業務の効率化を図る。	A	・定時退勤日には早めに退勤し、それ以外の日も業務記録票による勤務時間の確認と必要に応じて個別対応や支援を行う。 ・本年度も行事の計画時に内容や方法の再検討を行い、効率的に実施できるようにしている。 ・欠席連絡やアンケートのICT化など、できることから取り組んでいる。	A	・勤務時間を意識し、12月と1月は全職員が時間外勤務を要請できていた。また、自分の担当外の業務を協力しようとする意識も高く、組織的に動くことができた。 ・教務主任や各部会長等と連携し、行事の取組の再検討を行った。時間外効果を踏まえながら、児童の満足や達成感も大切に、充実した活動にすることができた。	A	・朝早くから勤務されているようだが、退勤勤務が遅くならないように、今後も気をつけてほしい。 ・業務内容は減らないので、工夫して取り組んでください。	・総務

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目	重点取組		具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
	評価項目	重点取組内容		達成度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○特色ある学校づくり	○地域の素材を生かした学習活動	○校区内の「人・自然・もの、行事」に愛着をもち、これらも大切にしていきたいと思う児童を90%以上にする。	・地域人材を活用することで地域の方々との交流や体験活動を積極的に行う。 ・地域の特色を生かした、社会科や生活科、総合的な学習の時間等と関連付けることで学習内容の充実を図る。	A	・地域の方をゲストティーチャーとして学校に招いたり、こちらから出向いたりして、積極的な交流ができていく。 ・地域素材を活用して各教科に関連させた学習を展開した。地域の「人・もの・こと」を知ることによって、これらも大切にしたいという意識が高まっている。	A	・地域に向かい向いの調べ学習や、ゲストティーチャーを招いた活動など、地域人材の活用を積極的に進め、地域の特色を生かした学習を進めることができた。 ・アンケートでは全児童が「これからは地域の人・もの・ことを大切にしていきたい」と回答し、地域のよさを感じ取っていた。94%の保護者が積極的に地域の学習ができていると回答し、十分に成果が出ている。	A	・地域の「人・もの・こと」を知るために、地域の素材や人材の活用に積極的に取り組まれている。これらも続けてほしい。	・総務 ・各教科主任
○危機管理	○情報モラルの指導	○情報モラルについて、インターネット上の危険やSNSの適切な使い方方を十分に理解できている児童を90%以上にする。	・アンケートを実施し、児童のインターネット機器や環境についての実態を把握する。その結果を基に指導内容の精選を行い、学期に1回以上の指導を実施する。	B	・6月に児童全体にSNSや情報モラルについての指導を行った。1月に隣にアンケートを取り、その結果からICT支援員と連携しながら、必要な指導内容を検討する。	B	・詳しいアンケート調査を実施することはできなかったが、職員研修会を開催し、授業で使えるようなサイトやアプリを紹介した。 ・児童の83%がインターネットの正しい使い方を理解していると答えたが、保護者アンケートでは65%と低い結果であったことから、今後は外部講師を招くなどのやり方も検討したい。	B	・児童と保護者の認識の違いがはっきりしている。児童は思ったほど危険性を感じていないようだ。 ・外部講師は、一般的な話ではなく、身近で起っている現実的な話を話す人を選んだほうがよい。また、保護者も一緒に聞ける機会をつくってほしい。	・情報教育担当者

●...果共通 ○...学校独自 ◎...志を高める教育	・全体的な評価結果として、全項目でAまたはBの評価で一定の成果が見られた。 ・授業を通して自分の考えや思いを深めるようにしてきたが、自分の考えをもつことに課題が見られる。児童の実態に合わせた内容の見直しや取り組みの工夫を行っていく必要がある。 ・引き続き多くの地域の方に来校いただいたり、調べ学習や体験活動をするために地域各所に積極的に出かけていったり。地域学習を通して、地域のよさを感じ取り、「これからは地域の人・もの・ことを大切にしていきたい」という心情を育てることができた。本校には地域の素材を生かした学習活動が根付いている。職員が多忙感を感ないよう、今年も実施時期や内容等を精査・調整していく。 ・情報モラルの指導については、集会や学級指導等で取り組んできた。しかし、児童と保護者とのアンケートの結果から、意識の違いがあることが分かった。今後は、学校での取り組みを家庭に知らせ、児童の理解が実践につながるように継続して指導していきたい。また、親子がそろって講話を聞き、共に学ぶ機会を設定したい。 ・学校評価における成果指標や具体的取組の設定は、数値目標や具体的な行動を挙げることで、ゴールを見えながら指導にあたってほしい。自己目標申告書とリンクをさせることで、学校教育目標の達成に向けて組織的、また個人としても継続して取り組めるようにしたい。 ・教職員、保護者、地域が共に関わりを深めながら取り組んでいきたい。
------------------------------	--

5 総合評価・次年度への展望